

TAC行政書士講座 無料講座説明会（ガイダンス）

受験経験者のための戦略的学習法

TAC行政書士講座講師 佐藤リサ

1. 行政書士試験の概要

- （1）試験概要
- （2）試験科目・出題数
- （3）合格基準

2. 受験経験者のための戦略的学習法

- （1）これまでの学習法をチェック
- （2）課題別戦略的学習法
- （3）令和6年度行政書士試験合格に向けて

1. 行政書士試験の概要

(1) 試験概要

試験日	例年11月第2日曜日
試験時間	例年午後1時から午後4時まで
受験資格	特になし
合格発表	例年試験日の翌年1月下旬
合格率	10%前後（令和4年度は12.13%、令和5年度は13.98%）

(2) 試験科目・出題数

科目		5肢択一式 (4点)	多肢選択式 (8点)	40字記述式 (20点)
法令等 46問 (244点)	憲法	5問 (20点)	1問 (8点)	
	民法	9問 (36点)		2問 (40点)
	行政法	19問 (76点)	2問 (16点)	1問 (20点)
	商法	5問 (20点)		
	基礎法学	2問 (8点)		
基礎知識（※）14問 (56点)		14問 (56点)		
合計		60問 (300点)		

※行政書士の業務に関し必要な基礎知識（一般知識、行政書士法等行政書士業務と密接に関連する諸法令、情報通信・個人情報保護、文章理解）

(3) 合格基準

①～③の全ての要件を満たした受験生が合格

- ①法令等の得点が、244点中50%にあたる122点以上であること
- ②基礎知識の得点が、56点中40%にあたる24点以上であること
- ③試験全体の得点が、300点中60%にあたる180点以上であること

2. 受験経験者のための戦略的学習法

(1) これまでの学習法をチェック

☑	チェック項目	考えられる課題
	全科目の学習ができたか？	学習スケジュール ⇒課題別戦略的学習法①
	復習を「しっかり」できたか？	復習方法 ⇒課題別戦略的学習法②
	40字記述式対策、一般知識対策を誤らなかつたか？	40字記述式対策、一般知識（基礎知識）対策 ⇒課題別戦略的学習法③

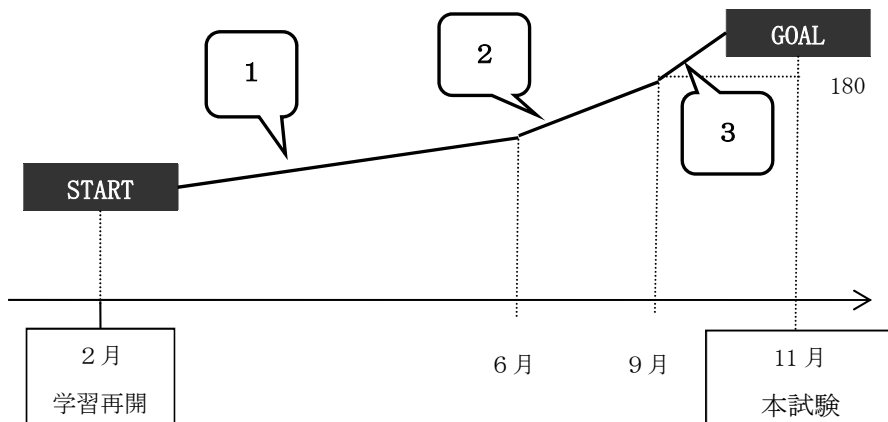
(2) 課題別戦略的学習法

① 学習スケジュール

POINT

- ・「**〆切**」を設けて学習し、とにかくまずは**1周**させる
- ・1周では理解できない、**3周以上**はできるスケジュールを組む

【スーパー答練を活用した学習スケジュール】



学習段階		内容		
1	スーパー答練 1st stage	方針	<p><1周目> 行政書士試験出題全科目を1周させる。 「自分の知識の穴を発見→埋める」を繰り返し、土台を固める。</p>	
		答練／解説 全16回	憲法	…3回
			民法	…5回
			行政法	…5回
			商法	…2回
	基礎知識（※文章理解は除く）	…1回		
2	スーパー答練 2nd stage	方針	<p><2～3周目> 少しレベルを上げて、行政書士試験出題全科目をさらに1～2周させる。実戦力（勝負できる肢で勝負する（※）力）を上げる。 ※「勝負できる肢で勝負する」とは… 問題の中から基本知識（＝勝負できる肢）とそれ以外を見抜き、基本知識を正しく正誤判断し、それを軸に答えを導き出す手法。</p>	
		答練／解説 全9回	憲法・基礎法学	…1回
			民法	…3回
			行政法	…3回
			商法	…1回
		基礎知識（※文章理解は除く）	…1回	
スーパー答練 3rd stage	答練／解説 全3回	全科目・全範囲（※文章理解は除く）	…3回	
3	直前期答練	方針	<p><最終調整> 本番のシミュレーションをし、力試し・最後の調整をする。</p>	
		答練／解説 全6回	総合答練（全科目・全範囲）	…3回
			全国公開模試（全科目・全範囲）	…2回
	最終答練（全科目・全範囲）	…1回		

② 復習方法

POINT

- ・「しっかり」＝質の高い方法で、丁寧に
- ・本試験当日の自分が困らないように、自分のために勉強をする。受け身（講義を受けただけ、問題集の「解答解説」に頼りきり、等。）はNG。必要な勉強時間は、自分がそれを消化するのに必要な時間。

【合格のための復習3か条】

1	「問題」単位ではなく「肢」単位で見直す
2	各肢の正誤の理由（特に×肢の理由）を一言で説明する
3	テキスト・六法・判例集を駆使し、答えを自分の目で確認する

③ 40字記述式対策、一般知識（基礎知識）対策

③-1：40字記述式対策

POINT

- ・40字記述式問題を解くのに必要とされる力＝×文章力、暗記
- ・「択一式問題を解き込むこと」が、最強の40字記述式対策となる。

【40字記述式問題とは】

5肢択一式	40字記述式																																																												
問題 次の1～5の中から正しいものを選びなさい 1. …（条文知識）…できる。 2. …（判例知識）…できる。 3. …（条文知識）…できない。 4. …（条文知識）…できない。 5. …（判例知識）…できる。	問題 AはBに…このとき、Aは、誰に対して、いつまでに、どのような措置をとることができるか。民法の規定に照らし、40字程度で記述しなさい。 <table border="1" style="width: 100%; height: 100px;"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>																																																												



【40字記述式問題を解くのに必要とされる2つの力】

1	重要条文・重要判例知識
2	問題文からどの条文・どの判例が問われているかを見抜く力

③-2：一般知識（基礎知識）対策

POINT
<ul style="list-style-type: none"> ・「何が出るかわからない」ところではなく、対策可能なところに全力を注ぐ。 ・「基礎知識」出題1年目の今年度試験においては、戦略は従来と変わらない。基礎知識は「情報3問+文章理解3問=6問」で基準点突破を目指す。

【一般知識（～令和5年度試験まで）】

対策難しい (現場対応)	政治・経済・社会 (※)	選挙制度・国家財政・社会保障制 度等々	7～8問
	情報	情報通信用語・個人情報保護法	3～4問
対策可能	文章理解	空欄補充・並べ替え・本文内容把 握等	3問
	計		14問 ☆6問死守

※令和6年度試験より、「一般知識、行政書士法等行政書士業務と密接に関連する諸法令」に変更。

(3) 令和6年度行政書士試験合格に向けて

POINT
<p>行政書士試験に合格する方法は…</p> <p style="text-align: center;">やるべきときに やるべきことを しっかりやる</p> <p>令和6年度の試験で合格することを決めた皆さん、一緒に頑張りましょう！ ご受講、お待ちしております。</p>